

## 令和5年度第2回三豊市総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和5年10月31日（火）15時00分～16時00分

【場 所】 三豊市危機管理センター2階 201会議室

【出席者】

(1) 構成員

職 名		氏 名
市長		山下 昭史
教育委員会	教育長	大原 一仁
	委員	野田 雄一郎
	委員	永田 洋子
	委員	須山 貴司
	委員	松田 真喜子

(2) 事務局

職 名		氏 名	
政策部	部長	石原 一也	
	政策調整官（地域戦略課長事務取扱）		竹田 直矢
	地域戦略課	副主任	田尾 勇樹
教育委員会 事務局	部長	開口 陽子	
	教育総務課	課長	鎌田 哲代
	学校教育課	課長	内田 さなえ
	学校給食課	課長	十鳥 武志
	生涯学習課	課長	立岡 睦子

【傍聴者】 なし

- 【会議次第】
- 1 開会
  - 2 市長挨拶
  - 3 教育長挨拶
  - 4 協議事項
    - (1) 三豊市教育大綱（素案）について
    - (2) その他
  - 5 閉会

【議事要旨】

発言者	内容
<p>進行</p> <p>山下市長</p>	<p>それでは、これより令和5年度第2回総合教育会議を開催いたします。          なお、本日の会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の四の6により公開することとなっております。</p> <p>はじめに、三豊市長 山下 昭史よりご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は、7月に引き続き2回目の総合教育会議ということで、お集まりいただき誠にありがとうございます。前は、新しい教育大綱の方向性をはじめ、幼保一元化の推進や部活動改革といったことについて、意見交換をさせていただいたところです。</p> <p>そして本日は、次第にもありますように教育大綱の素案について皆さんからご意見をいただいて、更にブラッシュアップしていくというステップになるかと思えます。いつも申し上げていることではありますが、三豊市で生まれ育つ子どもたちには、とにかく色々な選択肢を用意してあげたいと思います。先日の映画制作スクールもそうですが、幅広い可能性を感じてもらえるような教育大綱にしていく必要があると考えております。</p> <p>本日も、皆さんからは様々な角度から忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>進行</p> <p>大原教育長</p>	<p>続きまして、三豊市教育長 大原一仁様よりご挨拶をお願いします。</p> <p>映画制作スクールや宝山湖ボールパークでのオープニングイベントでは、子どもたちが日本のトップクラスの技術に実際に触れることができました。このような機会は非常に刺激的で、これからの子どもたちに必要なことだと強く感じたところです。本日の教育大綱の資料にも出てきますが、多様な選択肢と教育機会の提供ということで、今までどうしても学校の範囲でしかできなかった状況を変えていかなければならないと思っています。本日は皆さんから色々のご意見をいただき、教育大綱をより良いものにしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。</p>
<p>進行</p> <p>大原教育長</p>	<p>それでは、以降の進行につきましては、前回に引き続き、大原教育長に議長をお願いしたいと思います。大原教育長、よろしくお願い致します。</p> <p>それでは、ここからの議事につきまして、次第に沿って進行してまいりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>さっそくですが、協議事項の1番「三豊市教育大綱（素案）について」、事務局より説明をお願いします。</p>

教育総務課 鎌田課長	資料に基づき説明（略）
大原教育長	事務局から教育大綱の素案について説明がありましたが、まずは市長からご意見をいただければと思います。
山下市長	<p>教育大綱で大切にしたいのは子どもたちが自分で選べる選択肢を用意するという事です。その背景に何があるかという、基本的に自由であるということであり、環境的な要因によって、やりたいことができないという状況を排除していきたいと考えています。それは単に自由であるということではなく、住んでいる地域の歴史や文化を理解したうえで子どもたちが自由に選択していけるような環境を作っていくということが教育大綱の基本的な考え方だと思っています。</p> <p>言葉にするのは中々難しい部分もありますが、例えば教育大綱にもある多様性に関しては、人権だけの話になってしまいがちです。そうではなく、世界中にある多様性に対する考え方や文化といった要素も含めていくべきではないか、そのように考えているところです。</p>
大原教育長	委員の皆さんからもご意見をいただきたいと思います。
野田委員	<p>とても良い感じに仕上がってきていると思います。ただ、基本目標2の重点項目に母国語教育という言葉は出てきているものの、全体として読書活動という意味が含まれていないように感じました。活字離れが進んでいる中、子どもたちの成長過程における土壌を作り、自分自身の思うように行動していくという部分でもとても大切なことだと思います。そのあたりの内容はどこかに入らないかなと思います。</p> <p>また、基本目標4の重点項目に「学校・家庭が連携して情報モラル教育の充実に努めます」とありますが、ここには学校と家庭だけではなく、市も入って取り組まなければならない非常に重要な部分ではないかと感じました。</p> <p>基本目標5の重点項目にある「困っている友だちに共感できる子どもの成長を目指した学校づくり・学級づくり」とありますが、「成長」ではなく「育成」の方が良いのではないかと思います。また、「児童虐待の早期発見」という文言がありますが、早期発見だけでは不十分ではないかと感じました。例えば、「関係機関と連携して対応する」というような具体的なイメージが湧きやすい言葉を用いた方が良いと思います。</p>
大原教育長	以上のご意見について、いかがでしょうか。
山下市長	確かに活字離れは進んでいますね。最近はスマホで読んではいませんが。

野田委員	<p>学校図書館の活用では、低学年から高学年まで熱心に読書に取り組んでいる学校と、そうでない学校ではかなり差が出ているという話も聞きます。市立図書館についても、あまり利用されていないのでは、と感じています。魅力がある図書館というのはどういうものなのか、と考えています。</p>
大原教育長	<p>私も土壌を作っていくということは非常に大事だと思います。文部科学省でも主体的・対話的で、深い学びのある授業ということを言っていて、授業がそのように変わっていけば、当然のことながら論理的思考も高まってきます。言葉にするのは中々難しいですが、学校が授業や活動等の全てにおいてそのような方向に変わっていくというような内容を入れられれば良いと思います。</p>
永田委員	<p>では、野田委員からいただいたご意見の部分については修正していく方向でお願いしたいと思います。</p> <p>他に何かご意見等はございませんでしょうか。</p>
大原教育長	<p>教育は小学校からではないということは様々な場面で言われています。基本目標2では0歳から18歳までの子どもの支援には触れていますが、教育には触れていません。乳幼児教育は人として生きる力の根っこの部分に大きく関わる重要なものだと思っています。そこに重点を置いている市町も多くある中、乳幼児教育に関する記述がとても少ない点が気になりました。</p> <p>例えば、基本目標5の重点項目でも「児童生徒の」「学校教育では」という表現があり、就学前の教育が切り離されているように感じます。もっと乳幼児教育に関する内容も盛り込んでほしいというのが感想です。</p>
須山委員	<p>私も就学前に関する記述が少ないのが気になりました。基本目標2、4、5では就学前の内容にも、もっと触れていかなければならないと思います。</p>
大原教育長	<p>地域の関わりという部分で、地域の子ども会活動が薄れてきているように感じています。私たちの頃はもっと盛んでしたが、子どもたちが地域との繋がりを持ちながら、組織の中での思いやりや信頼関係を築いていけるような内容を盛り込んでいけたらと思いました。</p>
山下市長	<p>基本目標3、4あたりに盛り込んでいければと思います。</p>
山下市長	<p>永田委員のご意見に関連して、基本目標4の「青少年」を「子ども」という言葉にして、子ども全般を指すような表現にしてはどうかと思います。青少年と聞くとどうしても年齢層が高いイメージになってしまいます。</p>

大原教育長	<p>確かに、青少年と聞くと学齢期の子どもをイメージしますので、修正した方が良いと思います。</p>
松田委員	<p>若い世代だけで子育てしている世帯も多いと思いますが、若い保護者が気軽に相談できる場所、集まれる場所も必要ではないかと思いました。</p>
大原教育長	<p>基本目標4で保護者の学習機会の拡大に触れてはいますが、「家庭教育学級開催の啓発」という表現は非常に硬いと感じました。子育ての悩みを気軽に相談できるような取り組みも必要だと思います。</p>
松田委員	<p>子どもが大きくなっても相談したいことはたくさんあります。私たちの頃は保健師が来てくれて色々と相談に乗ってもらい、とても安心しました。</p>
山下市長	<p>基本目標4の重点項目では「子どもが気軽に立ち寄り」とありますが、子どもだけではなく、保護者にとってもそういう居場所が必要だということだと思います。</p>
大原教育長	<p>子どもも大人も気軽に立ち寄ることができる居場所づくりが必要ということだと思います。確かに、不登校の解消に関する実績では保護者に対する支援が有効です。保護者への支援が子どもにとっても良い効果があるというのは間違いないので、子どもだけではなく保護者も気軽に立ち寄れる居場所があるというのは大切なことだと思います。</p>
野田委員	<p>基本目標2に「家庭教育はすべての教育の出発点です」とありますが、誰に対して言っているのかが分かりにくいと感じました。家庭教育が教育の出発点ということではなく、家庭という基盤がある上で教育という要素が入ってくるのかなと思います。</p>
	<p>また、基本目標4で「健やかに育成されるよう」という表現がありますが、「成長できるよう」というように改めてはどうかと思います。もう一度、全体をじっくりと読み込んで文章の整合性がとれているのかなどを見直していく必要があるのではないかと感じています。</p>
大原教育長	<p>確かに「家庭教育はすべての教育の出発点です」というのは違和感があります。文言等をもう一度精査するということで進めさせていただきます。</p>
	<p>それでは、いただいたご意見を参考に教育大綱の素案を修正し、次回の会議であらためてご確認いただければと思います。</p>
	<p>次に、協議事項の2番「その他」となりますが、せっかくの機会ですので、何かこの場での協議事項等があればご発言をお願いいたします。</p>

永田委員	<p>不登校等の問題が多い中、子どもたちの居場所づくりについて民間ではどのような取り組みをされているのか、もし把握していれば教えてください。三野町でそのような動きがあると聞いたことはあります。</p>
大原教育長	<p>市の校長会でも不登校が話題になりました。完全に引きこもっている子どもたちにも学びの機会を保証しなければならないというのが文部科学省の考え方ですが、中々難しい問題です。子どもたちの居場所づくりについて、私が把握している中では、市内には9か所あります。ただ、そこへ行ったからといって学習ができる訳ではなく、また、学校側もその存在をあまり認識していないというのが現状です。そのあたりの意識も変えていかなければと思ひ、校長会ではその一覧表を配布しましたが、どのように連携し、活用していくのかというところは、まだこれから検討していくという段階です。</p>
山下市長	<p>市内には子ども食堂などもありますが、来年度、県が子どもの居場所づくりに取り組んでいくような動きがあると聞いています。子ども食堂は居場所ではありますが、月1回程度の開催ということと、子どもたちの移動が課題だと思っています。隣町にあってもなかなか行けないという現状があるので、本当は歩いていける距離にあるのが理想的です。県でもそのような取り組みを目指しているのではないかと思います。</p>
大原教育長	<p>東京の会社が運営するオンラインのフリースクールに市内で通っている生徒がいるということが分かりました。また、愛媛県教育委員会ではアバターで登校するという実証実験に取り組んでいるように、色々と進んできていると感じています。</p> <p>他に何か協議事項等はございますか。</p>
各委員	<p>特に無し</p>
大原教育長	<p>それでは、皆さん、熱心にご議論いただきありがとうございました。予定していた議事が終了しましたので、進行を事務局へお返しいたします。</p>
進行	<p>長時間に渡りご議論いただき、誠にありがとうございました。いただいたご意見を基に素案を一部修正いたしまして、次回の会議にて、あらためてご確認いただき、パブリックコメントへと進めさせていただきたいと考えております。</p> <p>以上をもちまして、本日の総合教育会議を閉会させていただきます。</p>

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和5年11月14日

三豊市長 山下 昭史

三豊市教育長 大原 一仁